

東京 2020 を見据えた産業観光部の施策の推進について

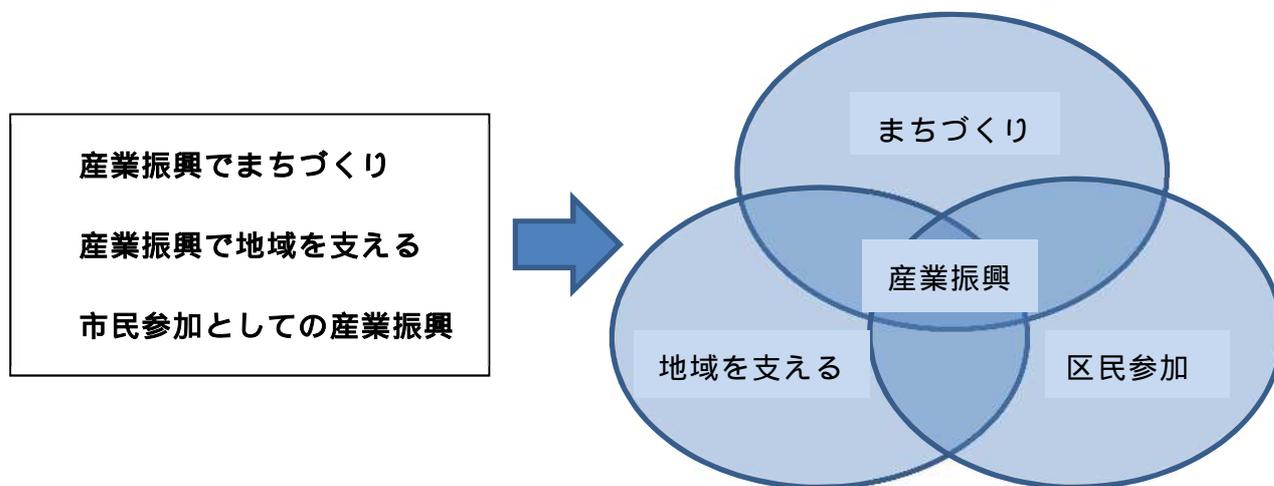
1 “ものづくりのまち すみだ”

墨田区の“ものづくり産業”は、江戸時代から続く全国でも有数の町工場の集積地だが、約 1 万社近くあった昭和 45 年をピークに、現在では約 2 千社強にまで減少している。

一方で、産業構造の変化、IoT や AI 等の技術革新、ビジネスモデルの多様化等、グローバル規模で様々な環境変化が起こっていることから、これまでの「ものづくり」の考え方を見直し、2020 に向けた産業の進化・発展に取り組む必要が生じている。

2 東京 2020 までに何ができて、2019 に何を、2021 以降何を残すか

- 地域を活性化し、オリパラを意識した産業を興す 観光～スポーツ、隅田川・・・
- 新しい価値を創造する 「ものづくり」の定義を広げる
- それぞれの個別最適（ものづくり、商業、観光、経営支援）ではなく、全体最適（地域全体を豊かにする）という視点をもつ



3 産業の進化・発展を図る取組

- 産業のまちのブランディング = 歴史・文化・スポーツ等と連動、統一感のある観光資源化、ストーリー化
- 「ものづくりのまち」の情報発信力の強化 = 作り手と消費者・産地間と異業種がつながる支えあうコミュニティ
- 「コトづくり」による「ものづくり」ブランディング = 地域資源プロモーション、地域おこし(DMO)